

令和4年度 ツバメ情報調査 調査結果

<調査の目的>

近年、ツバメは減少傾向にあると言われており、その背景には、エサ場となる水田や耕作地の減少、巣作りに適した日本家屋の減少などが影響しているのではないかと考えられています。さらに、地球温暖化の影響により、ツバメの飛来が早まっているとも言われています。

調査を通じて、身近な自然への関心を高め、地球環境を保全していく大切さについて理解を深めることを目的にしています。

調査拠点を学校としたことで、市全域での観察をすることができ、さらに児童生徒が変わっても同じ地点で調査が継続できるため経年の変化を見ることができます。

<調査の手法>

学校内において、次のポイントに注目して調査を行います。

①飛来時期(3~4月)のチェック (いつごろ見かけたか)

②営巣・産卵・子育て・巣立ち(~7月)(ヒナが何羽いるか)

巣立ち後、学校ごとに初めてツバメを見た日、子育てした巣の数、巣立った雛の数を報告します。

<調査期間>

3月下旬(飛来) ~ 7月(巣立ち) 一例として2週間に1回程度経過を観察

<調査結果>

ツバメの飛来が確認できた学校は6校でした。

子育てが確認できた巣の数は7巣で、巣立ちが確認できた雛の数は不明でした。

飛来は確認できたものの、子育て状況までは把握していない学校が多くありました。

また、ツバメが飛来したかどうか不明と回答した学校もあり、実際に飛来があった学校は更に多い可能性があります。

初めてツバメを見た日は、令和3年度と同様に4月ごろに見かけたという声がありました。

<まとめ>

令和3年度より、学校での調査を開始しました。各校の状況に応じて調査をお願いしており、調査を実施していない学校については、飛来の有無の聞き取りを実施しました。

飛来の分布は北部、中部、南部おおむね全域で確認ができました。大和市はまだツバメにとって子育てに適した環境が整っていると推測されます。ツバメは同じところに巣をつくること多く、南林間小学校、草柳小学校、下福田小学校、上和田小学校、渋谷中学校の5校は、令和3年度に引き続き令和4年度においても飛来が確認できました。

みどりの学校プログラムにおいて、2度目の調査になりましたが、飛来の時期や雛の数まで把握できた学校は初年度と同様に少ないという結果になりました。今後、多くの学校に参加いただければと思います。また、ツバメが来なかつた学校においても今回の調査結果分布を参考に、身近な季節の生物について関心を持っていただけたら幸いです。

ツバメの子育てに適した環境は、エサとなる虫などの生き物がたくさんいる田んぼや畑、川などが近くにあり、かつ、人が暮らしているというツバメにとって安全なところです。調査をきっかけとして、環境を保全していく大切さについて理解を深めてほしいと思います。

令和4年度調査結果

